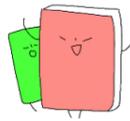


絵本は子ども向け、子どもが読む本だと思ってるそのキミ！
そんな固定概念にとらわれず、自分の作品作りを50年も続けてきた
すごい絵本作家がいるって知ってた？多分キミもご存じのはず！
紹介しきれないから、今回はほんのちょっとだけ触れることにしたよ！



☆YAキャラ紹介☆



イワイ
図書館ビギナー。
『ヒトニツイテ』を読み、
早速怖い夢を見た。



エーちゃん
ベテラン図書館ユーザー。
『ぞうがいます』を読んで
カナちゃんには推しが
見えるんやろなと思った。

特集

五味太郎さんの

絵本のほんの一部



五味太郎さん を簡単にご紹介すると…

1945年生まれ。1973年に『みち』で絵本作家としてデビューして以来、
この50年間で著作はなんと450冊超！しかも絵本はそのほとんどが文も絵も自作！
tupera tuperaさんに伊勢うどんが嫌いだとバラされていたよ。

伊勢うどん！？



だめだったか…



五味さんの絵本 ココが良い…

なにしろ おしつけがましくないのが いいのさ。

絵本を “その気になったら子どもだって読める本” と設定している五味さん。
よい子に育つ本を…とか、はやくおむつが取れますように…とか、
使用目的のある本は描かないのさ。かっこいい！

『みんなうち』は
トイトレ本ちゃうで



よう読んで



そんな五味さんの本の中で、特に気になった作品をご紹介しますよ。

『春』 五味太郎／作 絵本館

春といえば！新生活！新しい自分！新しい出会いにウキウキ…
「そうなれない自分はどうしたら…」って気持ちになったことはない？
五味さんも春が苦手だった。だから、春を描いたこの本も、
ちょっとどんよりしたピンク色の本になっただけ。
「こういう春でもいいんだ」と言ってくれているような、そんな本だよ。

ことりがとおる。

まどのそとを…



ヒト

ハ

カワイガル



『ヒトニツイテ』 五味太郎／作 絵本塾出版

出版社から「大人のための絵本を」という要請があって生まれた作品、らしい。
はじめて読んだときは、突然の衝撃の展開に、びっくり…！
え？え？？って言うてたら、終わっちゃった………！！
ああでも、ヒトってこうだよな…あ、そういえば自分もヒトだった…
なんだか心にズシンと来る、そんな本だよ。

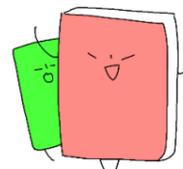
『ぞうがいます』 五味太郎／著 文化出版局



五味さんは19歳の時、親友を亡くした。深夜に将来のことを話して、見送ったと思ったら、交通事故でそれっきり。自分の中に穴が開いたような、この空虚な想いをどうするべきなのか…やがてその穴に対する五味さんなりの考え方に行きついたんだそう。そして50代の時に再び親友をなくした時、また新たに空いた穴を白又キの象にして、願いを込めて、この絵本のきっかけにした…のだそう。もしキミの心に穴が開いたとしても、キミだけの何かがきっとそばにいてくれるはず。



※『ぞうがいます』は推し活の本ではありません。



うまれつき こわいかおで ごめんなさい

『とりあえずごめんなさい』 五味太郎／作 絵本館

「とりあえず」。悪気はないんです。まあ、言っておいた方がお互い気分がいい…？んじゃないでしょうか。言っても意味ないかもしれないけど…というようなかんじ。シリーズに『とりあえずありがとう』『とりあえずまぢましよう』有り。

『大人問題』 五味太郎 講談社
『じょうぶな頭とかしこい体になるために』 五味太郎／著 ブロンズ新社

子どもと大人の関係、というものに対する五味さんの考えが文章中心で書いてある。「子どものためにより本を」という絵本の編集者や現場への違和感やら、教育システムの不合理みたいなものに対してモノ申してる本だよ。もっと言ってやってよ！って何回も読み返したくなる本なんだけど、五味さん本人は後になって振り返ったら「書かなくてもよかったのかな、なんてふっと思ったりもするよ」となったそうで、えー！？ってなっちゃった…



そうなん！？

どうだった？



「絵本 = 子ども向け」っていうより「ひとつの作品！」ってかんじがしたぞ…



五味さんはエッセイも深い…んやけど、やっぱり「絵本がすごい！」ってかんじやんな。みんなも改めて読み直したら新しい発見があるんかも…？

【参考文献】

- 『絵本を作る』五味太郎／著 ブロンズ新社
- 『五味太郎絵本図録』五味太郎／著 青幻舎
- 『からだ・シアター』五味太郎、寺門琢己／著 ブロンズ新社
- 『kodomo 2023年6月号』白泉社

図書館には絵本もたくさんあるのよ♡来てね！



いせとしよかんちゃん

YA・伊勢図書館 X(旧ツイッター) @IselibYa

